

平成28年度 静岡精華幼稚園評価書

2017. 2. 28

A そう思う B 大体そう思う C あまりそう思わない D そう思わない

精華幼稚園教育目標 ひとり立ちする子			自己評価		学校関係者評価委員会から	
			評価	意見	評価	意見
三つの重点	1	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校以降の学校教育を見据え、追求力、問題解決力の源を築こうとしている。幼児教育に対する幼稚園の基本姿勢が伺える。 ・子どもたちが充足感に満ちた顔をしている。 	
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおり広がり、付随して経験の幅も広がってきている。	A	A		
	2	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	A		
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	A		
	3	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	A		
		【子どもの状況】子どもたち話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	B	A		

教育目標具現に向けて育てたい七つの子どもの像	1	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・砂場での穴掘り、型抜き、山・川作り。園庭での縄跳び、鬼ごっこ、泥団子作り、スクーター、三輪車、ホッピング遊び。遊具にも群がる子どもたち。朝の幼稚園は本当ににぎやかで、どの子どももみんな生き生きと遊んでいる。 ・鬼ごっこの鬼になって子どもたちを追いかける先生。長縄を回しながら「すごい。上手。」と声をかける先生。みんなと手をつないで「花いちもんめ」に興じる先生。まるで子どもと教師が溶け合っているようだ。 ・教師が語りかけながら子どもたちを行事の楽しさの中に誘い込み、次第に子どもたちをその楽しさの中心に押し立てていっていることがよく分かる。 ・着替えや片付けなど、子どもの脇で子どもが成し終えるのを根気強く見守っている教師の姿を目にする。 ・年長児が年少児の着替えの面倒を見ている姿をよく見かける。 ・先生たちにはこやかに一生懸命挨拶の呼びかけを行っているが、今ひとつ子どもからの返りが弱い。同伴の親が率先して明るく挨拶を交わし、範を示しながらわが子を誘っていくことが必要だろう。 ・先生と子どもたちが談笑している姿をよく見かける。先生たちに笑顔が溢れ、子どもたちに安心感を与えている。 ・先生たちに安定感が感じられる。この安定感が、子どもたちの安心感を助長しているように思う。 ・園外保育の道中がすべて社会体験という考え方は的を射ている。 ・このところ園外保育に出かける度合いが多少鈍っているように感じる。多忙化の解消に努め、頻度の回復を心掛けたい。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみな遊びを楽しんでいる。	A	A	
	2	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりやを促したりする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	A	
	3	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で、行事に子どもの思いを反映させている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	A	
	4	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人ですり抜こうとする。	A	A	
	5	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら、挨拶のこだま返しを誘っている。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	A	A	
	6	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、」と話し出す。	A	A	
	7	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇（経験・体験）の広がりやを求めて、積極的に園外保育に出かける。	A	A	
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりや、確かな歩みを見せている。	A	A	